

新品目導入に対する支援策

問 地球規模での気候変動が進む中、本県でも新たな品目の導入を推進すべきと考えるが、アボカドやコーヒーなど新品目導入についてどのような支援を行っているのか。

答 新品目については、多様化する消費者ニーズに対応するため、県果樹農業振興計画の中で適地性を十分考慮しながら導入を進めることとしています。しかし、栽培技術が未確立で販路開拓が必要であるため、新品目導入にチャレンジする農家に対し、試験研究機関や普及指導員による助言に加え、県単独予算の果樹産地競争力強化総合支援事業で苗木代や土壌改良等への支援を行っているところ

一人親方への雇用保険加入の強要

問 大手企業の現場で働く一人親方が、元請企業から法令上加入義務のない保険への加入を迫られた結果、廃業に至るといふ相談が多く寄せられている。県としてどう考えるのか。

答 国土交通省の「社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン」では、法令上義務のない保険への加入まで求めていません。県としては、県内の建設産業に、ガイドラインの内容が十分に理解されるようホームページや建設業協会を通じて正しい趣旨の周知に努めています。

一人親方

建設業などで労働者を雇用せず一人で事業を行う個人事業主として取引先と契約する者

雇用型テレワークの普及促進

問 小学生以下の子供を持つ親がより自由な勤務形態をとれるようにするため、テレワークをどう推進していくのか。

答 国では働き方改革実行計画を策定し、雇用型テレワークの拡大に向けた検討が進められています。県内で雇用型テレワークを導入している企業は少なく、導入のためには就業規則の改定や設備投資も必要となります。県では、企業経営者に対し、労務管理のルールづくりのためのセミナーを開催するとともに国の助成制度の活用働きかけ、テレワークの促進を図っています。さらに、企業に周知する際は労働関係法令の遵守も強く働きかけていきます。

テレワーク

情報通信手段を活用し、場所や時間にとらわれずに働く労働形態。企業などの被雇用者がオフィス以外の場所で業務を行う「雇用型」、個人事業主や小規模事業者が自宅や小さな事務所で行う「非雇用型」がある。



インフルエンザ流行時の対応

問 病児・病後児保育は一度に受け入れできる人数に限りがある上、インフルエンザの子供は部屋を別にする必要があります。流行時にはどのような対策をとっていくのか。

答 県では、病児・病後児を常時受入可能な医療機関の増加や既存の定員枠の拡大を実施主体の市町村に働きかけてきた結果、今秋には和歌山市の1医療機関で新たに開設する予定となっています。今後も、病児・病後児保育の充実に向け、市町村に積極的に働きかけていきます。



不登校解消に向けての取組

問 本県の不登校の児童生徒数は前年度より少なくなっているが、1000人当たりの割合では全国平均を上回っている。不登校を解消するためにどのような取組を行っているのか。

答 本年度から不登校等総合対策事業に取り組んでいます。児童生徒一人一人の状況を把握し、解消に向けた具体的な支援計画を立てて対応するよう「不登校問題対応の手引き」を全教職員に配付して各学校で活用しています。また、児童生徒支援室を設置し、不登校の解消に向けて、未然防止から学校復帰支援までの各段階に応じた取組を総合的に進めていきます。

サイクリング王国わかやまの実現

問 新長期総合計画に位置づけられている「サイクリング王国わかやま」の実現に向けて、知事の思いを伺いたい。

答 本県はサイクリングに適した素晴らしい魅力を持っています。このことを国内外に情報発信し、新しい層のお客様にも県内くまなく周遊していただくことで、消費拡大や地域活性化を図り、全国に誇れる「サイクリング王国わかやま」の地位を築いていきたいと考えています。



わかやまサイクリング周遊マップ 県ホームページで公開中

葛城二十八宿を絡めた観光PR

問 和歌山市の友ヶ島から始まり、和歌山県、大阪府、奈良県にまたがる葛城二十八宿を山岳信仰にまつわる広域観光としてPRをしてはどうか。

答 葛城二十八宿は、豊富な歴史・文化を持つ本県の観光にとって県内周遊の促進の上で魅力ある素材の一つです。二十八宿の経塚をめぐるルートは修験の道であり、危険なポイントも多いと聞いていますが、観光客の安全・安心が確保できる部分については、現在作業を進めている「わかやま歴史物語」に周遊ルートとして組み込み、広く国内外に情報を発信していきます。

葛城三十八宿

修験道の開祖と言われる役行者が法華経八巻二十八品を埋納したとされる経塚である。和泉山脈～金剛山地の山やその付近の寺社を中心に二十八カ所の経塚があり、現在も修験道の行場となっている。

